磐梯山の地形：歴史上重要な噴火（地理模型）

磐梯山（1,816 メートル）は、噴火後に溶岩の温度下がり硬化したときにできる岩である安産岩などの火成物質で構成される活成成層火山です。裏磐梯ビジターセンターにあるこの地形模型は、およそ 12,000 分の 1 の縮尺で作られています。この模型を見ると、磐梯山と周辺の景観の全体を見渡すことができます。

数十万年もの期間にわたる幾度とない噴火により、磐梯山は円錐形になりました。これらの事象（噴火）のときに発生した火山物質が、川をせき止め、これにより猪苗代湖のような新しい水域を作り出したことで、磐梯山の地形と周りの風景を形作りました。

1888 年 7 月 15 日、壊滅的な大噴火が起こりました。磐梯山は、5 つの村と 11 の集落を岩屑に埋没させ、477 人の死者を出す水蒸気（水蒸気爆発）噴火を起こしました。押し出された砂や岩屑が磐梯山エリア全体に広がり、すべての植生が壊滅しました。この爆発により、磐梯山の山峰の 1 つが崩れ落ち、山の尾根に噴火口ができました。その噴火口は現在でも見ることができます。20 世紀初めに始まった植林プログラムは、現在繁栄している生態系の回復に寄与しました。